

「Mの力」を身につけて活躍する先輩たち!

[MASTER(修士号)]

〈学部生時代〉



夢は高校教員! 指導者となり甲子園常連校に育て上げたい!
でも、より効果的な指導方法を学びたいと感じていた学部生時代。

教員免許状(一種)取得
大学卒業

西 純平さんの「Mの力」

練習内容やトレーニングを「科学的・客観的に見る力」がUP
自分の経験・意図を的確に伝える「コーチング力」がUP

〈現在〉京都市立北嵯峨高等学校 保健体育科教員



大学院での学びや経験は教育現場での実践にも活かされています!

トレーニング理論を学んだ後、実践する授業を担当。硬式野球部の顧問においても経験と知識を融合し、選手を指導している。

Mで身についた力はココ! 博士課程前期課程(M)指導教員: 岡本 直輝 教授



私の研究室では、指導者の経験や勘による指導法に着目して観察評価しています。その中で、西さんは高校野球の戦略に焦点をあて、野球を科学的に観る目を養いました。コーチング研究で大切なことは、研究で明らかにしたことを実践し評価することです。現在、チームのバントとバスター技術を向上させ、強豪校に挑戦している西さんの姿を高く評価しています。



ポイント!

大学院修了とともに、「専修免許状」を取得し、キャリアアップもプラス!

※学校教育の抱える課題が複雑・多様化する中、諸課題に対応しうる高度な専門性を備えた人材が求められている。

〈学部生時代〉



夢は健康に携わる仕事!
でも、学部時代は基礎研究が中心で、知識を現場で活かせるような応用研究をしたいと感じていた学部生時代。

大学卒業

中山 侑紀さんの「Mの力」

根拠に基づき、物事を的確に説明できる「プレゼンテーション力」がUP

〈現在〉大塚製薬株式会社勤務



大学院での学びや経験を最大限に活かせる就職ができました!

病院等医療機関への食品営業を担当。その効果を説明する際、研究報告、臨床データを提示し、科学的根拠に基づいた説明を行っている。

Mで身についた力はココ! 博士課程前期課程(M)指導教員: 真田 樹義 教授



中山さんはコミュニケーションが得意なので、人と関わる仕事が向いていると思っていました。大学院では腹部肥満と身体活動量、食事摂取量との関係についての専門的知識を得ることによって、「自身の興味・関心を積極的に伝える能力」により磨きがかかりました。彼女は修士論文の内容にマッチした企業に絞って就職活動を行い、多くの内定を獲得しました。



ポイント!

大学院の研究を活かせる「就職先」と妥協しない進路選択で可能性を広げる!

〈学部生時代〉



夢はトップアスリートの競技力向上への貢献!
でも、スポーツ健康科学に対する専門知識を極める必要があったと感じていた学部生時代。

大学卒業

石橋 彩さんの「Mの力」

科学的知見に基づいた「より専門的な知識力」がUP
それを「現場に応用する力」がUP

〈現在〉国立スポーツ科学センター(JISS)※勤務



大学院での学びや経験を、栄養学の観点からトップアスリート達に還元しています!

2016年リオデジャネイロオリンピックへ管理栄養士として帯同する。

Mで身についた力はココ! 博士課程前期課程(M)指導教員: 海老 久美子 教授



石橋さんは大学院在学中、日本のトップチームからの栄養サポート依頼を受け、海外遠征に複数回帯同しました。大学院にて、アスリートの食事を科学的根拠に基づき解析する知識を吸収するとともに、チーム帯同等、その知識を現場に活かすための実践力を身につけたことが、現在の進路に繋がったのだと思います。



ポイント!

大学院修了後「トップ・アスリート」を科学的にサポートできる人材になれる!

※国立スポーツ科学センター(JISS)の研究員は、基本的に修士号以上の学位を有することが必要である。

《学歴別》賃金に関わるデータ

【内閣府】http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h25honpen/b1_04_01.html

【内閣府経済社会総合研究所】http://www.esri.go.jp/jp/archive/e_dis/e_dis310/e_dis310.pdf



+R 未来を生みだす人になる。
立命館大学

びわこ・くさつキャンパス(BKC)
スポーツ健康科学部事務局
〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1
TEL.077-561-3760

リッツネット大学院

スポーツ健康科学研究科ホームページ
スポーツ健康科学部・同研究科ブログ「あいコアの星」

<http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>

http://www.ritsumei.ac.jp/gs_shs/

<http://www.ritsumei.ac.jp/shs/blog/>